



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第110号

平成14年9月30日

編集 旭川医科大学  
教務・厚生委員会  
発行 旭川医科大学教務部学生課



からし菜の丘

(写真撮影 脳神経外科学講座 田中 達也)

教授就任のご挨拶	立野 正敏	2	第45回東日本医科学生総合体育大会	9
卒業生の動向(医学科)		3	研究室紹介	10
卒業生の動向(看護学科)		4	第71回日本学生陸上競技対校選手権大会	10
助教授紹介		4	外国人留学生夏季オリエンテーション	11
クラブ今昔(ソフトテニス部)	関川小百合	5	医大祭実施される	11
クラブ今昔(基礎スキー部)	佃 幸憲	5	入院患者さんとサマーコンサート	11
クラブ今昔(ビリヤード研究会)	永井 美子	6	教官の異動	11
クラブ今昔(温泉研究会)	吉田陽一郎	6	広報誌の標題「かぐらおか」の由来について	12
ワールドカップ中継と情報処理センター		7	表紙写真の募集	12
第49回北海道地区大学体育大会		8	窓 外	12



## 教授就任のご挨拶

病理学第二講座 教授 立野 正 敏

この4月より病理学第二講座を担当させていただくことになりました。家内が本学の三期生で学生時代はバレー部のマネージャーをしていたようでプレーのサインである“よしこ”は今でも使われているように聞いております。そういう事もあり、旭川医科大学で仕事出来るようになって、非常にうれしく思っております。

私は北海道大学を昭和53年に卒業し、すぐに第一病理学教室に入学いたしました。最初から基礎講座へ進んだ理由はいろいろありますが、二人の先生方の影響があったと思います。ひとりとは本講座の初代教授であった故板倉克明教授です。板倉先生は既に旭川医科大学へ赴任しておりましたが、北大で免疫学の講義を受け持っておられ、当時先生の講座で発見したHLAの型に“サッポロ一番”と名付け、当時有名だったインスタントラーメンの名より先だった話をなさいました。あとからお聞きしますと板倉先生は講義の準備に時間をかけるということで、どこでどんな冗談を言うかまですべて講義ノートに書いてあったそうですから“サッポロ一番”の出番は既に決まっていたと思います。最後に“若い医学生の中から一人でも将来の免疫学を志す人が出て欲しい”というようなことを述べられました。私はすぐに免疫をやるうなどとは決して思いませんでしたが漠然と“基礎も選択肢のひとつ”と思いました。もう一人は薬理学の石崎高志講師でGoodman-Gilmanに代表される古典的(?)薬理学を講義中に否定して薬物相互作用についての講義が主体でした。石崎先生も今から思えば過激な先生でしたが“臨床なんかは高い金を払って入学した私立医大の生徒に任せて国立の安い授業料で卒業した生徒は基礎をすればいいんです”とか“多くの学位論文は豚の耳に毛が何本生えているかを研究しているようなもので決して臨床に役立たない”とか学生の前でも平然と述べていました。“少しは臨床に役立つような研究をし

てみたい”と思ったものです。私は石崎先生の意見に全て同調するわけではありませんが、基礎では常に臨床に役立つものを目ざそうと思っています。

当時の第一病理には同期入学者が5人もいたために、市立札幌病院病理の方へ出て24年間お世話になりました。最初は当時普及し始めた単クローン抗体で悪性リンパ腫を染色し分類する仕事をしつつ、マウスを用いた自己免疫疾患の解析を行いました。程なく成人T細胞性白血病(ATL)の患者さんが入院してきました。当時試験管内でATL細胞がヒトリンパ球を不死化する事が報告されており、ラットリンパ球とATL細胞の混合培養を開始しました。やがて、HTLV-Iを産生しつつ増殖する培養株がえられ、新生ラットに移植可能でした。細胞マーカー検索、同系ラットを免疫して単クローン抗体の樹立などを行いました。その仕事の関係でUCSF(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)に留学しました。UCSFではHIVの研究をやりましたが上司の吉木先生が北大の教授として赴任することとなり、急遽帰国しました。帰国してHIVに関する研究を進めると共に電子顕微鏡を用いた形態学の仕事をしました。忙しい毎日でしたが超微形態の世界は芸術というか趣味に近いものがあり、生物が創り出す美しい作品に触れることは楽しみでもありました。

こちらでは片桐副学長の流れである、過敏症や腫瘍免疫の仕事が続ける一方、自己免疫疾患やレトロウイルスの研究を新たに始めるつもりでおります。また、講義に関してですが、旭川医科大学では学生の自主性を尊重した授業が行われており、学生が熱心で真面目なことに少し驚いています。6年間の学生生活を楽しんで、卒業後のタフな生活の準備をしていただければと思います。卒業後の選択肢のひとつに基礎講座を選ぶ方が一人でも出てくれるとありがたいと思いつつ拙文ではありますが就任の挨拶とさせていただきます。

## 卒業生の動向（医学科）

去る3月25日（月）に本学を卒業した97名の  
勤務（連絡）先は次のとおりです。

## 卒業生の動向（看護学科）

### 助教授紹介



医学部整形外科学講座 伊藤 浩  
出身大学：北海道大学

本年4月に本学に赴任いたしました。1987年、大学卒業と同時に北海道大学整形外科に入局して、いくつかの病院でのトレーニングを経て現在に至っております。研究分野は股関節外科学で、弛みの生じにくい新しい人口股関節の素材やデザインに関する研究、特発性大腿骨頭壊死症のMRIによる早期診断や自然経過の研究などを行ってまいりました。今後本学の臨床および基礎研究が国際的に実を結ぶよう、微力ながら何らかの形でお手伝いできればと思っております。ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



医学部附属動物実験施設 中谷 和宏  
出身大学：帯広畜産大学

昨年12月田中宏講師が急逝したため5月1日に助教授を拝任いたしました。

最近の15年間をみても「大学等における動物実験について」通達、「動物の愛護及び管理に関する法律」改正そして「情報公開法」が制定され、実験動物の適正な取扱いが益々厳しく問われております。加えて「国立大学独立法人化」を1年半後に控え施設の対応は多岐に及びつつあります。皆様方の御意見や御協力をいただき、今後の難局を乗り越え精度の高い動物実験が遂行できる開かれた施設を展開したいと希望しております。

## クラブ今昔(ソフトテニス部)

医学科5年 関 川 小百合

ソフトテニスという知名度が低いためかマイナーなスポーツだと思っている方が多いと思います。しかし、実際には、老若男女約700万人の愛好者がおり、日本では最も愛好者の多い競技の一つです。私たちの部にも約60人の部員がいます。そもそも、ソフトテニスは日本で生まれ育ち、明治17年の発祥から既に110年を超えた長い歴史をもっています。1992年から国際的に普及しやすいように軟式テニスという名称が「ソフトテニス」と改められました。やわらかいゴム製のボールを使用するため一見ぶつかってもそれほど痛くないように思えますが、思い切って強打するのでスピードは速く、ぶつかるととても痛いのです。競技は主にダブルスで行われます。お互いに技術をだしきって協力しあうのです。そのためにはコンビネーションプレーが重要であり、一人の力だけでは試合に勝

つことはできないのです。

練習は放課後に大学のコートで行っています。しかし、近年は部員の数も増え、手狭になってきたため学校外のコートで練習することもあります。試合前には夕方から夜遅くまで練習することもあります。みんなテニスをすることを楽しみながら練習に励んでいます。部員の中には初心者から始める人も大勢います。初めは思ったようにボールを打つことができないのですが、地道に練習を重ねていくうちに少しずつ自分の思い通りに打てるようになってくるのです。部活動を通して、テニスについてだけではなく、団体の中の一員として責任を持って行動することも学ぶことができます。また、日々の練習を積み重ねていくことで、精神力や忍耐力を養うことができます。このことは、将来社会にでたときにいかされていくことと思います。

最後になりましたが、これまで部を見守ってきていただいた顧問の石川先生、小野寺先生をはじめとするOBの方々には、大変感謝しております。これからもよろしくお願いします。

## クラブ今昔(基礎スキー部)

医学科5年 佃 幸 憲

こんにちは、旭川医大基礎スキー部主将の佃です。

基礎スキー部は部員が50人くらいいて、旭川医大の中では結構大きな部なのですが、皆仲良くスキーを楽しんでいます。主に冬だけの活動なのですが、近くにあるカムイスキーリンクスというスキー場で週に2回から3回くらい自分達のやりたいようにスキーを楽しんでいます。「基礎スキー部」とはとっても基本的には自由で、人によっては、モーグルをやっている人もいますし、朝一番のゴンドラで上がって、新雪を滑っている人もいたり、どっちかといえばスキーが好きな人達が集まっている団体みたいな感じなんです。

冬休みになると技術選の全国大会で優勝や準優勝するデモンストレーターがやって来て教えてくれたりもします。そうやっているうちに入

学するまでスキーをしたことがなかった1年生が2、3年すると1級とってたりなんてこともあります。

また、3月の末には、北海道の学生が集まって行われる学生の技術選大会があり、日頃はその大会に向けての練習もしています。大会は朝里スキー場で開かれるのですが、大会中は他の大学の人たちとも交流があり、スキーを通して友達も増えたりとスキー以外にも楽しいことが多いです。

冬のシーズンが終わるとその次のシーズンまではたいていのは他の部活とかけもちしているので、それぞれ自分が所属している部の方に散っていきます。

他の部はいろいろな大会に向けて一生懸命練習して、優勝しようという気持ちが強いと思いますが、基礎スキー部はとにかく楽しくといった感じでラフな部活です。そこが良いところだと思えるので、これから先もこのまま続いてほしいと思います。

## クラブ今昔(ビリヤード研究会)

医学科3年 永井美子

私がビリヤードと出会ったのは、大学に入学して間もない頃でした。高校時代とは違った世界を知りたいと思っていた私は、友人数名と共にビリヤード場へと向かいました。そこは独特な雰囲気にも包まれたとても居心地の良い空間でした。しかし、ビリヤードという日常生活に関わることの少ない競技のためか全くの初心者が1人で入りこむには勇気のいる空間でした。私はそのビリヤード場の常連となっていた大学の友人に教わりながらだったので安心してその空間へ入りこむことができました。新しい世界を見ることができた私はその後も友人と共にビリヤードを楽しみました。私たちの行っているビリヤード場は医大からも近く医大生の先輩方も何人か見かけました。先輩方と知り合う中で、医大にも「ビリヤード研究会」があるということを知りました。しかし新入生の勧誘も特にせ

ず内輪のサークルというスタンスをとっていませんでした。せっかく研究会として存在しているのに、ビリヤードに興味のある学生が気軽に入ることができないのは残念に感じたので、何とかできないだろうかと考えました。先輩とも話しあった結果私たちが主体となって運営を行うことになり、大学に入学しビリヤードに興味がある人がビリヤードを楽しむための手伝いをするを目標に、ビリヤード場のオーナーに指導していただくこともできるようになりました。新体制を作り、新たな研究会として出発した時には5名だった会員も現在3年生が7名、2年生4名、1年生3名、近隣の専門学校生2名と計16名に増え週一度の練習も活気のあるものとなっています。忙しい時間の合間をぬっての練習ですが、みんな精一杯練習し着々と上達しています。一般の方たちにも仲良くしていただき、そしてなにより指導にあたってくださっているオーナーに支えられ、顧問である上口先生に協力していただきこの研究会は存在しております。これからも会員一同頑張っていこうと思います。

## クラブ今昔(温泉研究会)

医学科5年 吉田陽一郎

温泉研究会は6、7年前に創設された比較的新しいクラブである。私が入学する少し前に発足したと聞いている。活動としては主に「道内の温泉」を研究することである。

ところで入学当時の私は卓球部に入部した記憶はあるが、温泉研究会に入部した覚えはびた一文ないのである。卓球部の先輩から「いやいや、そういうことになっているから」と説明を受けたきりで、疑問を抱くことを知らない無垢な私はまんまと入部である。不思議なもので気付いてみればこんな由緒正しい“かぐらおか”に代表として原稿を書いている。「あのお温泉研究会の代表の吉田さんですよ。ええ。くらぶ今昔という欄に原稿をお願いできませんか？」と学生課の方から電話をいただいたときは「出来ません！」と元気に答えそうになったが、そこは私も大人。「よろしい、ひきうけましょう！」

とと快諾。と言ってはみたものの、何を書こうかと頭をひねっても温泉研究会の活動した記憶が無い。正直なところ卓球は一生懸命やってきたが、温泉はあんまり研究してない。しかし卓球部で道内、道外あちこちに遠征、旅行したおりには必ず一つや二つご当地の温泉を訪ねたものである。今考えるとそれが“温泉研究会”だったのかなーと思う程度である。だから「～町の～温泉はナトリウム泉だから～に効くんだよー」みたいな温泉研究者のようなカッコイイことは当然述べられないわけで…。「おいおい、そんなやつに代表やらすなよ！」と言われそうですが、ご安心あれ、他の温泉研究部員もこんな感じです。こんな駄文でクラブの今昔が伝わるはずもなく、創設者の先輩や読者の皆様には申し訳ないです。

しかし温泉に入りいつも思うのは「ここには何も無いが自然だけはある…。自然は僕らの死なない程度、十分・毎年食わせてくれる。」ということでもあります(なんだそりゃ)

## ワールドカップ中継と情報処理センター

情報処理センター長 坂本 尚志

情報処理センターは、キャンパスネットワークや教育用コンピュータシステムの管理などを担当している部署です。普段は目立たない情報処理センターですが、最近では研究活動にも力を入れておりますので、ここに紹介させていただきます。

6月14日、サッカーワールドカップの日本対チュニジア戦が行われました。試合は日本代表が勝利し、ワールドカップ決勝トーナメント進出という歴史的快挙を成し遂げました。

ところで、この試合、臨床講義棟にて中継されていたのをご存知でしょうか。当日は医大祭の準備日にあたり講義もなく、多くの学生に加えて教職員による立ち見が出るほどの盛況でしたので、覚えておられる方も多いでしょう。

情報処理センターの研究活動とサッカー中継。およそ関係のなさそうな話です。けれども、このサッカー中継は、情報処理センターの研究活動を象徴的に表しています。

情報処理センターは、道北という広大な土地における医療を担う本学にとって、在学生や教職員、卒業生を結びつけるネットワーク技術が、今後、死活的に重要となっていくと認識しています。そこで昨年、本学の将来に向けたネットワーク技術の研究活動を開始しました。

初年度である平成13年度は、総務省 通信放送機構からの受託研究として、慶應義塾大学環境情報学部と共同で次世代インターネットの通信規約であるIPv6の基礎研究を行いました。また、総務省の保有する研究用次世代ネットワークであるJapan Gigabit Network との3年間の共同研究を開始し、実証実験のために学内全ネットワークのIPv6対応化と、コミュニティーサイトの立ち上げを行いました。平成14年度には、学内の各部署と協力しながら、このコミュニティーサイトの運用実験を継続して行っています。また、キャンパスネットワークを利用した学内放送局を立ち上げ、旭川医大フォーラムや各種研究会などを中継し、ビデオライブラリとして整備すること等を検討しています。

学内の全ネットワークがIPv6に対応したことは国内の大学ではおそらく初めてであり、これによ



り本学の先進的な取り組みを広く全国に示すことが出来ました。また、コミュニティーサイトでは、研究成果を利用して掲示板や電子シラバス、メーリングリストなどの実験的サービスを行っています。このように、情報処理センターの研究は、ネットワーク技術を通じて本学コミュニティーの発展に貢献するという目的で行われています。

今回、新しいキャンパスネットワークを用いてサッカー中継を行うことで、学生、教職員が、日本代表を応援するという一つの目的の下に立場を越えて集うことが出来ました。同じように、距離と時間を越えたコミュニケーションを可能とするネットワーク技術を用いることで、本学の発展のために在学生、教職員、卒業生を結びつけることも可能であるはずで、情報処理センターの研究活動が、そのための潤滑油になればと思っています。

地方単科大学にとって、人材を結びつけるネットワークを発展させていくことは、研究や教育活動の発展へと直結しています。そのためにも、私たちの研究活動がその一助となることを希望するとともに、関係各位にも幅広いご支援、ご協力を賜りたいと考えています。以下にアドレスをまとめますので、まずはお気軽にアクセスを！

コミュニティー実験サイト  
<http://www.kyokui.net>  
<http://www.kyokui.tv>

情報処理センター  
<http://www.asahikawa-med.ac.jp/ipc/>

# 第49回

## 北海道地区大学体育大会

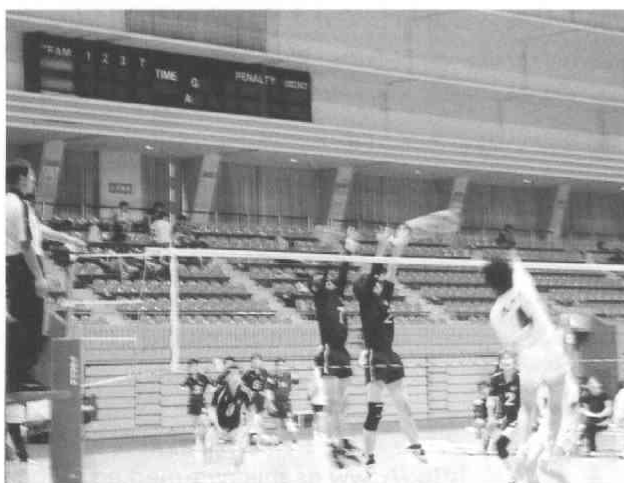
第49回北海道地区大学体育大会は、本学が当番校となり7月13日(土)～15日(月)の3日間、道内の各国公私立41大学、47単位大学から約4,100名の学生が参加し旭川市を主会場として札幌市、愛別町、当麻町、比布町、美瑛町の延べ19会場で熱戦が繰り広げられました。

大会前に、台風が上陸し硬式野球が1日順延になりましたが、期間中は多少雨に降られた程度で、全日程を無事終了することができました。

今大会は、弓道(男子)が優勝、ソフトテニス(オープン)(女子)が準優勝、バレーボール(男子)が準優勝となり、個人では、陸上競技(男子400m)で長尾知行君(医3年)が3位、同(男子走高跳)で原谷俊治君(看護1年)が2位、同(女子100mH)で遠藤寿子さん(医2年)が2位と健闘しました。

この大会のため、多忙な中を多くの方々にご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

(学生課)



種目	順位	優勝	準優勝	旭川医大
総合	男	旭教大	道都大	9位
	女	旭教大	酪農学園	14位
陸上競技	男	旭教大	浅井学園	12位
	女	浅井学園	札教大	6位
硬式野球		旭川大	酪農学園	
準硬式野球		札医大	函教大	3位
ソフトテニス	男	(道医療大)	(北星学園)	(3位)
	女	(武蔵女短)	(旭医大)	(準優勝)
バスケットボール	男	酪農学園	岩教大	ベスト8
	女	旭教大	札教大	
バレーボール	男	旭教大	旭医大	準優勝
	女	旭教大	旭川大	
サッカー		道都大	札医大	
卓球		北大	室工大	
バドミントン	男	旭教大	岩教大	
	女	浅井学園	岩教大	
柔道		道都大	道工大	
剣道	男	釧教大	函館大	
	女	函教大	酪農学園	
弓道	男	旭医大	酪農学園	優勝
	女	学園北見	北星学園	
ハンドボール		道都大	北大	





### 第45回東日本医科学生総合体育大会



第45回東日本医科学生総合体育大会（夏季大会）は、7月28日（日）～8月14日（水）まで東京医科歯科大学が総合主管となり、聖マリアンナ大学医学部、昭和大学医学部、筑波大学医学学郡を主管として行われました。

本学からは26種目に約300名が参加しました。

今大会は、

バレーボール（男子）	優勝
バドミントン（女子）	優勝
バスケットボール（男子）	優勝
ゴルフ（女子）	優勝
バドミントン（男子）	準優勝
弓道	3位

と大活躍し総合優勝を飾りました。

個人では、バドミントン（女子シングルス）で奥島華純さん（医6年）が優勝、剣道（女子個人戦）で岩城憲子さん（医3年）が準優勝、永井美子さん（医3年）が3位と活躍しました。

その昔、旭川医科体育大学と異名をとった頃の再現でしょうか。

男子バスケットボールは、20年目にして悲願の初優勝を果たしました。

（学生課）

種目	順位	優勝	準優勝	旭川医大
総合	合	旭川医大	自治医大	優勝
陸上競技	男	慶應大	山形大	
	女	筑波大	東北大	
準硬式野球		弘前大	筑波大	5位
テニス	男	山梨医大	東北大	
	女	群馬大	北海道大	
ソフトテニス	男	自治医大	信州大	9位
	女	北海道大	東京医大	
卓球	男	筑波大	群馬大	5位
	女	群馬大	筑波大	
バレーボール	男	旭川医大	札幌医大	優勝
	女	千葉大	新潟大	
バドミントン	男	順天堂大	旭川医大	準優勝
	女	旭川医大	筑波大	優勝
サッカー		日本大	千葉大	
バスケットボール	男	旭川医大	北海道大	優勝
	女	聖マリアンナ医大	東京医大	
柔道		自治医大	順天堂大	
剣道	男	自治医大	東京慈恵医大	
	女	埼玉医大	秋田大	5位
弓道		札幌医大	新潟大	3位
空手道	男	弘前大	聖マリアンナ医大	
	女	自治医大	筑波大	
水泳	男	東京慈恵医大	聖マリアンナ医大	
	女	東京医大	慶應大	
ゴルフ	男	聖マリアンナ医大	慶應大	
	女	旭川医大	東海大	優勝
ハンドボール		東京慈恵医大	山梨医大	10位
ラグビー		弘前大	自治医大	



## 研究室紹介

### 解剖学第一講座 教授 吉田 成 孝

解剖学第1講座は教授の吉田成孝が平成13年4月に着任した“若い”教室です。教室員は吉田および寺山隆司と板東良雄の助手と休職中の助手、加藤英政の教官と佐々木孝志、羽澤和美の2人の技官をあわせた6人のスタッフと麻酔・蘇生学講座の横濱洋也と酒巻雄二、外科学第2講座の山田理大の3人の大学院生と一緒に研究しています。また医学科3年の高木清考君も時々顔を出して実験をしたりしています。

今回は研究室紹介ということで研究面についてだけ記すこととします。本教室では「神経系の細胞外環境」をテーマとして研究しています。脳には神経細胞やグリア細胞などの多種多様な細胞が存在していますが、これらの細胞表面には様々な細胞接着因子が多数存在し、細胞外にもまた多様な高分子の糖蛋白質である細胞外マトリックスが充満しています。これらの因子はただ存在して結合しあっているだけではなく、これらから細胞内は多くのシグナルを受けています。細胞外にはまた、蛋白分解酵素も多数存在しています。私たちは細胞外の蛋白質を調節する因



子としてこの蛋白分解酵素に注目しています。例えば、学習や記憶といった脳の高次機能にも複数の蛋白分解酵素が重要な役割を果たしているのです。本教室では中枢神経が傷害されたときの細胞外環境の変化に特に注目して研究を進めています。これまでに、傷害時に新たに発現する酵素を同定し変化をきたす細胞外の因子と共にその機能を明らかにしようとしているところです。スタッフは多くはありませんが、分子生物学的、組織学的、細胞生物学的手法を用いて面白い発見ができるように日々努力しているところです。

研究者の方は共同研究や単なるテクニカルな相談でも気軽に声をかけて下さい。また、研究に興味がある学生の方も気軽に教室を訪ねて、私たちがどんなことをしているかを見聞きしに来て下さい。

## 第71回日本学生陸上競技対校選手権大会

東医体の活躍の余韻が覚めやらぬ平成14年9月7日に、本学医学科2年 榊原 学 君が東京都新宿区霞ヶ丘町10番地の国立霞ヶ丘競技場において行われた、第71回日本学生陸上競技対校選手権大会（日本学生陸

上競技連合主催）の男子3000m障害個人戦において第4位（8分49秒76）という輝かしい成績を取めました。

彼の健闘をたたえと共に、皆さんにお知らせします。

（学生課）



## 外国人留学生夏季オリエンテーション

平成14年8月16日(金)に外国人留学生夏季オリエンテーション及び交流会が実施され、在籍留学生13人中8人とその家族5人及び教職員が参加しました。

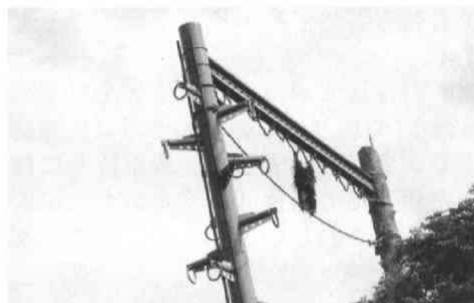
今回は理論よりも感覚的に、生命を扱うことの大切さ難しさを再認識してもらうことと、旭川市の文化施設の見学とを兼ねて旭山動物園を見学しました。

ペンギン館では上下左右を見渡せる水中トンネルの中から、ペンギンがスピーディ

ーに泳ぎ回る様子を見学し、オランウータン舎では大きな体で観客の頭上にわたされた柱とロープを使って綱渡りのように移動する様子に、童心に帰って楽しんでいました。

見学後の交流会では、限られた環境の中でストレスを最小限にするため、それぞれの動物の特徴によって様々な工夫が凝らされていることや、冬の寒さから守るための動物園の苦勞等が話題にのぼっていました。

(学生課)



## 医大祭実施される

大学祭実行委員会の主催による医大祭が6月15日(土)16日(日)の2日間にかけて行われました。

「みんな医大に行こう」というテーマで、例年の医学展、模擬店の他に柳田邦男さんの講演会、電撃ネットワークによるパフォーマンスと硬軟織り交ぜて一般市民の方の参加を企画していました。どちらも大盛況だったようです。

花火大会でフィナーレとなりましたが、翌日には近辺を廻ってごみの回収をきちんとしていました。

(学生課)



## 入院患者さんとサマーコンサート

7月8日(月)の夕方に合唱部によるコンサートが、7月20日(土)にはギター部によるコンサートが病院ロビーで行われました。

このコンサートは、日頃の練習成果を発表するとともに、入院生活を送っている患者さんにひとときの憩いを味わってもらおうと、この時期に毎年企画されているものです。

医療や看護の基礎の基礎として、まず患者さんの気持ちをつかもうという姿勢は患者さんにも伝わったと思います。

(学生課)



## 教官の異動

辞	職	H14.6.30	看護学	助教授	阿部 典子
昇	任	H14.7.1	輸血部	講師	紀野 修一
昇	任	H14.8.16	看護学	教授	新開 淑子
辞	職	H14.9.30	第二内科	講師	伊藤 博史
昇	任	H14.9.30	第二内科	講師	横山 和典

## 広報誌の標題「かぐらおか」の由来について

本学は昭和47年7月1日に創設準備室が設置され、旭川市北門町9丁目の北海道教育大学附属旭川小学校の旧校舎を使用していました。

昭和48年9月29日に正式に旭川医科大学となり、同年11月5日に第一期生が入学してからも仮校舎の使用が続き、現在地に建設中の新校舎と附属病院の完成を心待ちにしておりました。

そして、昭和49年5月に不自由だった仮校舎から新校舎へ移転できました。当時の関係者にとって感激の出来事だったと思われれます。

当時の住居表示は、旭川市神楽町神楽岡3番地13であり、この年の9月に広報誌の第1号が発行されました。皆が待ちに待っていた新天地の名称「かぐらおか」が広報誌に最もふさわしい名称とのことで、初代

学長山田守英氏（故人：平成7年6月27日永眠）により命名されました。

その後、神楽町神楽岡3番地11と地番が変わり、隣接地が住宅等で密集し緑が丘と改称されたため神楽町神楽岡が分断される形となり、西神楽4線5号3番地11と改称されました。そして現在の、緑が丘東2条1丁目1番1号と表示は変わりましたが当時の感激の象徴であった地名「かぐらおか」の名称を引き続き大切に残していきたいと思えます。

（広報誌編集委員会）



## 表紙写真の募集

写真の得意な方、写真の好きな方、写真に興味のある方、あなたの写真で「かぐらおか」の表紙を飾りましょう。皆さんの応募を、心よりお待ちしております。

採用の方には、謝礼をさしあげます。

申し込み、問い合わせは学生課専門職員 細木まで。（広報誌編集委員会）



## 窓外

皮膚科 講師

高橋 英 俊

## 教育改革

昨今教育改革、ゆとり教育が叫ばれ、今年からは完全週休二日制、授業時間の縮小およびそのカリキュラムの大幅削減が実施された。

今までは小学生3人の父親でありながら、教育問題についてはほとんど無関心でご多分に漏れず妻まかせであり、小学校の間は学校だけの勉強で十分と考えていた。しかし昨年6月に妻が入院し、その間子供たちの勉強をみる羽目になり考えは一変した。子供たちの学力が明らかに我々の時代よりも低下しているからだ。教科書を見てみると特に算数、理科が我々の時代と較べ確かに易くなっているようで、さらに時間割をみるとやたらに野外授業、社会見学など、少し語弊はあるかもしれないが、本当に勉強しているかどうかかわからな

いようなものが多く、また宿題なども先生によってはほとんどない場合もある。子供たちの学力低下は数年前からいわれてきたことで、今年から始まった教育改革で更に拍車がかかることは必至と思われる。このことは最終的には大学教育にも暗い影をおとすもので、ある研究雑誌には有名国立大学においてでさえ、学生の理数系の学力低下が深刻化しているこのことが取りざたされていた。旭川医大においてもチュートリアル教育が始まり、さらに新カリキュラムのスタートにより系統講義が減り、確かに学生の自主的な勉強が主体となりつつある。いい意味でのゆとりができ、また実際に患者さんと接する機会が増えるすばらしいものと思われる。ただ心配なのはこのゆとりにどっぷりと浸りきってしまうことである。おぼえるべき医学知識、情報は膨大に増えている。最近ではインターネットで患者自身がよく勉強しており不勉強ですまされないことが間々ある。このゆとり教育がさらに卒後教育にシワ寄せすることなく、数年後このカリキュラムにより育成されたすばらしいドクターが誕生することを期待している。そうでなければ貴重な時間を割いてカリキュラム編成、教育に携わっている教官たちがあまりにもかわいそうである。